

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470901248
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館
訪問調査日	平成22年11月9日
評価確定日	平成22年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901248	事業の開始年月日	平成17年3月17日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館			
所在地	( 223-0057 ) 横浜市港北区新羽町3954-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中のグループホームで、入居者は毎日の散歩等を通じ四季折々の花や木々を見ながら季節を体感されています。食事は同法人の老人保健施設の管理栄養士が作成したメニューを基に、入居者と一緒に地域の商店に買い物に行き、調理を行っています。地域の農家の方からいただいた取れたての野菜が食卓を飾る事もあります。入浴は毎日入る方、一日おきの方、早い時間を希望される方、夕食後の方など一人ひとりの希望に合わせる対応をしています。同法人のボランティア行事や映画鑑賞会、メイク教室、セラピストによる週二回の音楽療法、ボランティアによるヨガ体操や地域の行事にも参加するなどイベントも多く、楽しみの多い生活環境が整備されています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年11月9日	評価機関 評価決定日	平成22年12月27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①ここホームは医療法人寛栄会の経営で老健カメリアを中心としてカメリア診療所、グループホームカメリア壱番館、カメリア貳番館で構成されている。カメリアとは英語で椿の花のことであり、その花言葉は「長寿」である。要介護者をかかえるご家族の気がかりは、要介護者の心身の機能が衰え、介護や医療の比率が高まることである。カメリア壱番館は医療連携体制をとっており、同法人の医師と看護師が勤務する老健カメリアが近隣にあるという点で安心感がある。法人内での連携については、a)職員教育として法人全体の学習会の実施。b)老健カメリアからの音楽療法士の来訪。c)老健内のカメリアシアターでの映画の定期的上映会。d)法人全体の敬老祭(椿祭)、作品展の開催など法人のネットワークを有効に活用している。理念は「一人ひとりの尊重」「家庭的な生活の場」「ご家族様、地域との交流」を3つの柱として構成されている。  
 ②地域との交流では、自治会主催のお祭りや行事に参加している。ご近所の子供たちがホームに遊びに来たり、犬の散歩の方々との交流がある。小・中学生が体験学習で3~4人来所されるので、庭の草むしり、窓拭きなど一緒に行っている。小学校の運動会に招待され参加している他、理美容院やレストランは地域の商業施設を活用している。病院もカメリア診療所(内科・心療内科)以外の診療科目については地元の医院を活用している。老健カメリアでのイベントで老健ご利用者との交流を行っている。  
 ③ケアについては、法人共有のフォーマットを活用して行っている。デジタルなケアチェックシートにより問題点を抽出し、月1回の介護計画を中心としたモニタリングを行い、介護計画のうちルーチンになったものは日程表に落とし、カンファレンスで介護計画を見直すケア体制が定着している。利用者のADLが低下した場合はケアプランを変更し、職員全員が統一した個別ケアを行うようにしている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の3本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の3本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。新入社員受入れの際には必ず説明し徹底している。年度の目標は本部方針に沿いグループホーム独自で作成・展開している。委員会活動も法人全体の職種で行いスキルアップに役立てている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、地域の行事などには積極的に参加している。また地域の商店で日々の食材を購入したり、美容室やレストランを利用することで地域や近隣の方々との交流を図っている。	町内会に入会しており、地域の行事（お祭り）などには積極的に参加している。また地域の商店で日々の食材を購入したり、美容室やレストランを利用することで地域や近隣の方々との交流を図っている。老健カメラでのイベントで老健ご利用者との交流も行っている。民生委員などの紹介もあり、地区センターの行事（三味線コンサート）にも参加している。小学校の運動会への参加、中学校の体験学習の受入等も行なっている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、地域のお祭り等の行事に参加することで地域の方々との交流し理解を得るよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者とその家族も参加し、ホーム内での生活の報告をする中で、様々な意見をいただいている。その意見を検討しホームでのサービスに反映できるよう努めている。	運営推進会議は自治会長、民生委員、地域代表、家主、包括支援センターの方の他にご入居者とそのご家族も参加され、ホーム内での生活の報告をする中で様々なご意見を頂いている。その意見を検討しホームでのサービスに反映できるよう努めている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいるほか、福祉保健センター職員の方にも健康面での相談を行っている。また、情報をいただいた研修には職員を積極的に参加させている。	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいるほか、福祉保健センター職員の方にも健康面での相談を行っている。また、情報をいただいた市区町村主催等の研修には職員を積極的に参加させている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し拘束の定義を再確認しているほか、職員ミーティングで個別に入居者について検討し、拘束のないケアの実践に努めている。	同法人内の勉強会へ参加し拘束の定義を再確認しているほか、職員ミーティングで個別に入居者について検討し、拘束のないケアの実践に努めている。シルバーハラスメントに関するアンケート、自己評価を実施している。又、玄関に施錠するのではなく、外出希望の方には出来る限り対応するケアを行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会へ参加し虐待に対して学び、再認識、自己確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会にて学び、参加できなかった職員にもレポートを回覧し情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い確認を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している他、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。	運営推進委員会でご意見を伺うほか、ホームに対する意見箱を設置している他、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。個人別に家族連絡ノートを作ってあり、統一した回答が出来るよう心がけている。ご希望については介護計画に組み込むようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員ミーティングを開催し、職員の意見を表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、職員一人ひとりが自分の意見を言いやすいような職場作りを心がけている。	月一回職員ミーティングを開催し、職員の意見を表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、職員一人ひとりが自分の意見を言いやすいような職場作りを心がけている。年間の個人目標を設定し、1年で自己評価し、定期面接を行なっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また管理者は代表者に常に相談にのってもらえる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修があり、隔月で実施している学習会に参加している。それぞれのスキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。入職直後にはトレーナー職員がサポートに就きOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム対象の外部研修に参加した際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会をもっている。また体験入居を設け、本人、家族ともに納得し、安心してからご利用いただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談での来所や電話で、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。また入居直後は本人の様子を電話にて家族に伝え、安心していただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談した内容を多職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じてはインフォーマルを含めた他機関との連携も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接しており、理念にあるよう語らいの時間を大切にしている。職員の人事異動を極力少なくし、馴染みの関係の中で安心して生活していただけるように配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に様子を報告すると共に、家族からも面会時や外出、外泊時の様子や感想を伺うようにしている。職員、家族間の情報を共有し本人と共に支えるという関係作りを実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にこれまでの馴染みの方からの面会は積極的にしていただいたり、それまで参加されていた行事などへの参加も勧めしている。入居後は入居者同士や法人職員、地域の方などと馴染みの関係が作れるように支援している。	入居時にこれまでの馴染みの方からの面会は積極的にして頂くようにお話しし、それまで参加されていた行事などへの出席もお勧めしている。入居後は入居者同士や法人職員、地域の方などと馴染みの関係が作れるように支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション時などは利用者同士が上手くコミュニケーションが取れるように配慮し、良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に、今後も相談に応じる旨を必ずお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や会話の中で把握に努めている。また個別にお話しする時間を作り、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方には日常生活を注意深く観察し、本人の意向を把握する努力をしている。	日常の様子や会話の中で把握に努めている。また個別にお話しする時間を作り、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方には日常生活を注意深く観察し、本人の意向を把握する努力をしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺い、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、個人記録に記入しているが、特に変化があった時は本人の言われた言葉も記録に残し、口頭でも職員間で申し送っている。体調の変化があれば必要に応じ医療機関につないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活からアセスメントを行い課題を抽出し、本人、家族の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。	日々の生活からケアチェックシートによりアセスメントを行い課題を抽出し、月1回の介護計画を中心としたモニタリングを行い、本人、家族の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事量表などの記録を中心に職員間で情報を共有しながらより良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが出てきた場合、家族にも報告しそのニーズに合った支援をいち早く行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人で行われるボランティア行事や映画鑑賞会などに参加し、楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的を受診できるように援助している。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。また、同法人内の診療所と医療連携も図っている。	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的を受診できるように援助している。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。また、同法人内の診療所と医療連携も図っている。専門の診療科目については地元の専門医を活用している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を共有している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった場合、情報提供書を病院に提出し、家族に同意を得て病院医師からの説明がある時は同席させていただいている。退院前にも医師と相談し退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の生活や医療に対する考え方について本人・家族等と入居当初に説明を行い、文章にて同意を得ている。	終末期の生活や医療に対する考え方について本人・家族等と入居当初に説明を行い、文章にて同意を得ている。終末期の往診は終末医療専門医にお願いし訪問看護のアドバイスを受けながら実施した経験がある。看護師・介護職員による看取りの介護計画書等も様式を整えている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に委員を配置し、代表として月1回の会議に参加し内容をホームに持ちかえり申し送っている。また同法人の勉強会では実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に指導いただき、年2回の防災訓練を行い、緊急時にはスムーズに通報、初期消火、避難誘導できるように心がけている。	消防署に指導いただき、年2回の防災訓練を行い、緊急時にはスムーズに通報、初期消火、避難誘導できるように心がけている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないよう心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行うため個人名は出さずに行っている。	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないよう心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行うためプライバシー保護の視点から個人名は出さずに行っている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。また日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、入居者の意思を尊重し本人のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは支援が必要な方には選択の援助をしている。衣類購入の際には、その方によって好みの店を選んでいる。美容室は地域の店に行き、本人の希望でカット、カラー、パーマをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに得意なこと、できることを生かし調理、盛り付け、配膳、洗い物など行う中で、食事への関心を高めている。	メニューは老健の栄養士が作成したものを活用し、食材は入居者と一緒に買い物に行って作っている。入居者それぞれに得意なこと、できることを生かし調理、盛り付け、配膳、洗い物など行う中で、食事への関心を高めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、一人ひとりの通常摂取量に対しての食事量チェックを行っている。食べられない料理がある場合には代替を用意している。水分量が少ない方にはチェック表を記入し、こまめに水分摂取をしてもらい、不足しないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には見守りや介助を行っている。義歯の方は夕食後、洗浄剤で消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。できる限りトイレでの排泄を目標としている。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。できる限りトイレでの排泄を目標としている。コストも考慮し、リハパンは夜だけとし、昼間はリハパンに頼らないようケアをしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼ることなく排泄できるように、朝食前に牛乳を提供したり、食事メニューにヨーグルトを取り入れたりしている。毎日の散歩や体操など、身体を動かす事も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせてるように、毎日午後から夕食後までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。	入居者の希望に合わせてるように、毎日午後から夕食後までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中でも臥床時間を作っている。その日の状態によって、夜間の睡眠に差し支えない程度に昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作り、誤薬のないよう十分気をつけている。処方された薬の説明書は個人記録にファイルし、変更があった場合は申し送りを行っている。状態に変化があれば速やかに医師、看護師に報告し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみのある生活を送れるように、外出や趣味の実践のお手伝いを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買物の希望にも随時対応しており、家族同行の買物も行っている。隔月で行っている外食も行き先を選択していただいている。	毎日の昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買物の希望にも随時対応しており、家族同行の買物も行っている。隔月で行っている外食も行き先を選択していただいている。理美容については地域の美容院を利用している。お花見は大きな車で桜の名所を巡っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や雑貨の購入の際、ご自分で支払いをしている。ご家族了承のもと、入居者が散歩時に小額をお持ち、自動販売機で飲料を購入する事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話を希望された時には、時間を配慮し話しができるように対応している。手紙も便箋、葉書の購入や投函の手伝いを行っているほか、毎月郵送している事務関係の郵便の中に自筆の便りを同封するなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地が自然に囲まれ、近隣の畑周囲や庭に四季折々の草花が咲き季節感が十分にある環境である。室内の配色は落ち着いており、入居者が穏やかに生活できるように配慮されている。	立地が自然に囲まれ、近隣の畑周囲や庭に四季折々の草花が咲き季節感が十分にある環境である。室内の配色は落ち着いており、入居者が穏やかに生活できるように配慮されている。廊下にはご入居者の作品を展示するなどして作品制作意欲が持てる楽しめる空間作りを行っている。掘炬燵があり、腰掛けて新聞を読むご入居者もいる。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングには陽あたりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをすることができるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良い空間作りをお手伝いしている。	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良い空間作りをお手伝いしている。身体状況の変化によっては危険の無いように家具の配置を配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具の配置もそれぞれの状況によって配慮している。一人ひとりの身体状況の変化に応じ、必要であれば福祉機器の活用も取り入れ、安全に自立した生活を送れるよう常に考えている。		

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の3本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、地域の行事などには積極的に参加している。また地域の商店で日々の食材を購入したり、美容室やレストランを利用することで地域や近隣の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、地域のお祭り等の行事に参加することで地域の方々と交流し理解を得るよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者とその家族も参加し、ホーム内での生活の報告をする中で、様々な意見をいただいている。その意見を検討しホームでのサービスに反映できるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいるほか、福祉保健センター職員の方にも健康面での相談を行っている。また、情報をいただいた研修には職員を積極的に参加させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し拘束の定義を再確認しているほか、職員ミーティングで個別に入居者について検討し、拘束のないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会へ参加し虐待に対して学び、再認識、自己確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会にて学び、参加できなかった職員にもレポートを回覧し情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い確認を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書ももらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している他、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員ミーティングを開催し、職員の意見を表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、職員一人ひとりが自分の意見を言いやすいような職場作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また管理者は代表者に常に相談にのってもらえる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修があり、隔月で実施している学習会に参加している。それぞれのスキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。入職直後にはトレーナー職員がサポートに就きOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム対象の外部研修に参加した際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会をもっている。また体験入居を設け、本人、家族ともに納得し、安心してからご利用いただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談での来所や電話で、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。また入居直後は本人の様子を電話にて家族に伝え、安心していただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談した内容を多職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じてはインフォーマルを含めた他機関との連携も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接しており、理念にあるよう語らいの時間を大切にしている。職員の人事異動を極力少なくし、馴染みの関係の中で安心して生活していただけるように配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に様子を報告すると共に、家族からも面会時や外出、外泊時の様子や感想を伺うようにしている。職員、家族間の情報を共有し本人と共に支えるという関係作りを実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にこれまでの馴染みの方からの面会は積極的にしていただいたり、それまで参加されていた行事などへの参加も勧めしている。入居後は入居者同士や法人職員、地域の方などと馴染みの関係が作れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション時などは利用者同士が上手くコミュニケーションが取れるように配慮し、良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に、今後も相談に応じる旨を必ずお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や会話の中で把握に努めている。また個別にお話しする時間を作り、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方には日常生活を注意深く観察し、本人の意向を把握する努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺い、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、個人記録に記入しているが、特に変化があった時は本人の言われた言葉も記録に残し、口頭でも職員間で申し送っている。体調の変化があれば必要に応じ医療機関につないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活からアセスメントを行い課題を抽出し、本人、家族の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事量表などの記録を中心に職員間で情報を共有しながらより良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが出てきた場合、家族にも報告しそのニーズに合った支援をいち早く行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人で行われるボランティア行事や映画鑑賞会などに参加し、楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的に受診できるように援助している。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。また、同法人内の診療所と医療連携も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を共有している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった場合、情報提供書を病院に提出し、家族に同意を得て病院医師からの説明がある時は同席させていただいている。退院前にも医師と相談し退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の生活や医療に対する考え方について本人・家族等と入居当初に説明を行い、文章にて同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に委員を配置し、代表として月1回の会議に参加し内容をホームに持ちかえり申し送っている。また同法人の勉強会では実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に指導いただき、年2回の防災訓練を行い、緊急時にはスムーズに通報、初期消火、避難誘導できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないよう心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行うため個人名は出さずに行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。また日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、入居者の意思を尊重し本人のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは支援が必要な方には選択の援助をしている。衣類購入の際には、その方によって好みの店を選んでいる。美容室は地域の店に行き、本人の希望でカット、カラー、パーマをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに得意なこと、できることを生かし調理、盛り付け、配膳、洗い物など行う中で、食事への関心を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、一人ひとりの通常摂取量に対しての食事量チェックを行っている。食べられない料理がある場合には代替を用意している。水分が少ない方にはチェック表を記入し、こまめに水分摂取をしてもらい、不足しないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には見守りや介助を行っている。義歯の方は夕食後、洗浄剤で消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。できる限りトイレでの排泄を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼ることなく排泄できるように、朝食前に牛乳を提供したり、食事メニューにヨーグルトを取り入れたりしている。毎日の散歩や体操など、身体を動かす事も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせてるように、毎日午後から夕食後までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中でも臥床時間を作っている。その日の状態によって、夜間の睡眠に差し支えない程度に昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作り、誤薬のないよう十分気をつけている。処方された薬の説明書は個人記録にファイルし、変更があった場合は申し送りを行っている。状態に変化があれば速やかに医師、看護師に報告し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみのある生活を送れるように、外出や趣味の実践のお手伝いを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買物の希望にも随時対応しており、家族同行の買物も行っている。隔月で行っている外食も行き先を選択していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や雑貨の購入の際、ご自分で支払いをしている。ご家族了承のもと、入居者が散歩時に小額をお持ち、自動販売機で飲料を購入する事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話を希望された時には、時間を配慮し話しができるように対応している。手紙も便箋、葉書の購入や投函の手伝いを行っているほか、毎月郵送している事務関係の郵便の中に自筆の便りを同封するなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地が自然に囲まれ、近隣の畑周囲や庭に四季折々の草花が咲き季節感が十分にある環境である。室内の配色は落ち着いており、入居者が穏やかに生活できるように配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングには陽あたりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをすることができるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良い空間作りをお手伝いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具の配置もそれぞれの状況によって配慮している。一人ひとりの身体状況の変化に応じ、必要であれば福祉機器の活用も取り入れ、安全に自立した生活を送れるよう常に考えている。		

